




関東大学1部復帰の立役者

内定先のユニホームを着て、写真撮影に応じた中大サッカー一部5選手。前列左から渡辺、安在、後列左から大橋、上島、内藤各選手

サッカー部 リーグ内定 5選手を 記者発表

プロで活躍誓う



 手塚聡 サッカー部監督

愛される選手に

「5人はプロとして旅立ちます。体づくり、食事、睡眠に気を配り、自分の力を出して、チームに貢献。サポーターから愛される選手になってほしい」

中央大学サッカー部は昨年12月13日、関東大学2部リーグ2018年シーズン、得点王の大橋祐紀選手(商4)らJリーグ内定5選手を発表した。1部復帰を4季ぶりに決めたヒーローたちが、今年はプロとして活躍する。

多摩キャンパスで行われた記者発表。5人の選手はそろいのジャケットにそろいのネクタイを締めて登壇した。

ストライプネクタイを彩る金と茶はチームカラーだ。机の上に準備された内定先クラブのユニホームとマスコットが撮影タイムを待っていた。

湘南ベルマーレに内定した大橋祐紀選手(商4)、F C東京の渡辺剛選手(経4)、柏レイソルの上島拓巳選手(法4)、東京ヴェルディ1969の安在達弥選手(商4)、F C琉球の内藤健太選手(法4)。

選手たちが抱負を口にする。

「レギュラーになります」(大橋選

手)、「2020年東京オリンピックで活躍したい」(渡辺、上島両選手)、「サガン鳥栖の安在和樹選手、兄をいつか超えたい」(安在選手)、「試合のピッチに立つ」(内藤選手)

プロのサッカー選手になりたい、という子どもの頃からの夢をかなえて、いきいきとした表情だ。



背広姿で格好良く決めた、左から大橋、渡辺、上島、安在、内藤各選手

上島、安在両選手はそれぞれ柏レイソル、東京ヴェルディで、ジュニアからユースまでプレーした。

愛着のあるクラブ入りを内定して、喜びもひとしおのよう。

一方で、大橋選手は「教員になる勉強もしています」と話した。

多士済々のメンバーで中大サッカー部は、4季ぶりに関東大学リーグ1部(参加12校)復帰を果たした。2部(同)を圧倒的な強さで優勝し、ベストイレブンに7人が選出された。

21得点を挙げた大橋選手は得点

王とFW部門ベストイレブンのダブルタイトルだ。21得点は1部・2部を通じてのリーグ最多得点記録となった。

4年生は、2年生からの3年間を2部でプレーした。

その3年間を振り返り、主力選手はこう話した。「どうすれば1部に昇格できるか。ずっと考えて行動していた。選手もチームも、いいときばかりではないと思う。不調なときこそ、あの経験が生きる」(渡辺選手)

「ラスト3分、0-1から逆転勝ち

した慶大戦。サッカーの素晴らしさを知り、残酷さを知りました」(上島選手)

2019年のJ1開幕は2月22日、J2は同月24日。「運動量では負けません」と安在選手。「泥臭く戦います」と大橋選手。「キックで勝負」と内藤選手。

選手5人は決意を胸にクラブの顔、日本代表の顔となるべく、全力プレーを誓った。



加納樹里 サッカー部部長(文学部教授)

感謝の気持ち

「例年以上にうれしい、誇らしい報告会です。サッカー部は関東大学リーグ1部に復帰しました。この5人は1年生のときに2部降格。以来、日本一の集団をつくろうと努力してきました。プロ入りして大いに活躍してくれるでしょう。」

2つの言葉を贈ります。最初は感謝。指導者、チームメイト、家族ら多くの人

がサポートしてくれました。逆境に陥ったときこそ感謝の気持ちを忘れないでほしい。次は、頭を使え。ヘディングではなく、考えること。監督の意向を理解し、チームメイトとコミュニケーションを図る。このチームで自分を生かすにはどうしたらいいか、考えてください」

中央大学サッカー部 5選手の進路&プロフィール

名前	学部	身長	体重	ポジション	進路先
大橋祐紀	商4	178	72	FW	湘南ベルマーレ
渡辺 剛	経4	184	76	DF	FC東京
上島拓巳	法4	185	80	DF	柏レイソル
安在達弥	商4	173	72	DF	東京ヴェルディ1969
内藤健太	法4	176	73	DF	FC琉球



Cマークをつくり、カメラマンのリクエストに応える
左から柳田、鍛田、都築各選手

バレーボール部

柳田^{やなぎた}、都築^{つづき}、鍛田^{くわた}3選手を
イタリア派遣

強化の一環 世界トップレベルを知る

中央大学バレーボール部は1月18日、柳田主将ら3人をバレーボール強豪国のイタリアへ最長55日間、派遣することを決め、多摩キャンパスで記者発表した。

派遣されるのは柳田貴洋(法4)、都築仁(法2)、鍛田憲伸(法1)各選手で柳田、都築両選手は昨年に続き2度目。

海外派遣は部の後援会・海外支援プロジェクト「THE FUTURES」によるもので3度目の試みとなる。

日本代表でイタリアのプロチーム「シエナ」に所属する中大OBの石川祐希選手は同制度などにより、イタリアへ在学中2度の派遣を経験している。

初の海外経験となる鍛田選手は熊本・鎮西高3年次、アタッカーとして全日本高校選手権(春高バレー)優勝に大きく貢献し、大会優秀選手6人に選ばれた。レベルの高い中大でも注目選手の一人だ。

「入学前から海外で学んでみたいと思っていました。石川さんの海外挑戦を知って、僕にもチャンスを頂けるなら、と頑張ってきました。イタリアはバレースタイルが違うと聞いています。高さ、パワー、スピードがすごい。守りでもサーブレシーブが正確。アタッカーでも守れないと通用しないそうです」

海外チャレンジ、とくにイタリアは若手選手の憧れの地。世界最高峰のプロリーグがあり、各国の五輪代表選手が集まる。

鍛田選手はユースやジュニアの日本代表選手だった。2017年3月のアジアユース(U19)でミャンマーへ。2018年7月にはアジアジュニア男子選手権(U20)で中東のバーレーンへ。

「でも、けがをしていてベンチから見ることが多かったです」



顔で表現したい

イタリアの所属先リボルノではトップチームと共に練習し、試合出場のチャンスをうかがう。派遣期間は2月11日から3月15日までの約1カ月。

「日常生活でも自分に厳しくしたい。自分をもっと磨いてスキルアップしたい。1カ月がプラスになるようにします」

イタリア語習得を今後のテーマとする一方で、自分なりのコミュニケーションを考えている。

「積極的になんでもやって、顔で表現したい」

イタリア行きが決まったあと、

母が言った。「みなさんに感謝なさい。で、イタリア語は話せるの」。返事は「話せるよ」。母に心配をかけたくなかった。

「食事は問題ないと思います。ピザ、パスタ、チーズといったイタリア系がめちゃくちゃ好き」。こぼれんばかりの笑顔になり、「念のためにしょうゆとマヨネーズは持って行きます」と、また笑った。

中大バレーボール部は昨年、関東大学1部リーグで春季3位、秋季6位、全日本学生選手権(インカレ)5位と精彩を欠いた。

「中大は選手層が厚く、勝ちたいという意識がみんな高い。僕も競っていないと。イタリアで成長して帰ってきます」

イタリア発、飛躍行きへの旅立ちである。



鍛田選手

柳田選手 (派遣先アンゲイラーラ 期間48日間)

中大に感謝

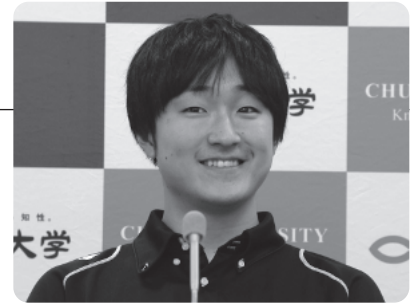
前回に続く2度目のイタリア滞在。「今回は自分からもっと表現したい」と積極的だ。

身長184センチのリベロ。「日本では大きいと言われますが、イタリアではもっと大きな選手が大勢います。大きくても動きがシャープで、到達点まで最短の動きをする」とは前回目を見張ったシーン。

「卒業する僕まで派遣して頂けるのは、中大を超えた配慮と受け止め、感謝しています」

卒業後はプロ入りを志望。派遣先などで所属チームを検討するという。英文の入団契約書を読み込むのが日課になった。

「食事面では前回の反省から、ドレッシングを持って行きます。イタ



リアはサラダをオリーブオイルと塩で食べます。僕には合わなかった。今回はインスタントみそ汁も。無性に飲みたくなるときがあるんです」

バレーボール人生と共に食卓の準備にも抜かりはない。

都築選手 (派遣先クラブイタリア 期間55日間)

プロの厳しい世界を見た

「イタリアでは僕と同じような身長(194センチ)の選手がいっぱいいます。攻撃はもちろん、守備もうまい。僕もサイドアタッカーとしてもっと力をつけたい」

イタリアでのチーム練習は1〜2時間程度。「その後の自由時間を

みんな個人練習に当てていました。やらなきゃ落ちていきます。僕も時間を有効に使いたい」

前回はベースに高いレベルを目指す。驚きの時間は過ぎて、実りの時間を求める。

「中大は昨シーズン、タイトルが



なかった。イタリアでスキルアップして大学に還元したい。3年生になり、チームを引っ張っていきます」とタイトル奪取に意欲を見せていた。



豊田昇平監督の話

■グローバル人材育成

「バレーボールの強化のために海外トップレベルを知ることは大切です。海外派遣はグローバル人材の育成につながる、教育の一環。3人にはいい経験をしてきてほしい。柳田選手は4年生で帰国後に卒業しますが、中大から世界へのスローガンのもと、バックアップしたい」

2019年度 春季関東大学バレーボールリーグ戦

開幕 4月6日(土)
最終日(予定) 5月25日(土)

1部 男子参加校(12チーム)

早大	順天堂大
日体大	日大
筑波大	駒大
明大	東京学芸大
東海大	慶大
中大	専大